

## 御堂筋の産みの親、關一市長(1873-1935)

現代大阪の都市基盤を作ったのは第七代大阪市長の關一です。第六代大阪市長の池上四郎に請われて、東京高等商業学校(現一橋大学)教授から大阪市の助役になり、公設市場・職業紹介所などの社会政策を進めました。池上市長の後を受けて市長となり、大阪市の都市改造に力を注ぎました。その大きな成果が第一次大阪都市計画事業です。御堂筋の拡幅工事もその一つです。また、大阪地域の拡張が大阪市の発展につながるとして、当時農村が大部分であった東成郡・西成郡を編入し第二次市域拡張を行いました。地下鉄の建設も關市長の主導で行われました。大阪市民から敬愛された名市長でしたが、1936年(昭和10年)在職中になりました。その葬儀は初の市葬として執り行われ、NHKが中継し、数万の市民が参列し逝去を悼んだのです。



安井武雄

## 大大阪時代を代表する名建築家、安井武雄(1884-1955)

1910年(明治43年)、東京帝国大学工科大学建築学科を卒業後、南満州鉄道へ入社し10年間を中国大陸で過ごしました。その後、大阪の片岡建築事務所を経て、1924年(大正13年)に安井武雄建築事務所を開業します。現在、株式会社安井建築設計事務所が継承しています。昭和初期のモダニズム建築としても知られ御堂筋のシンボルともいえる大阪ガスビルや、南欧風の様式に東洋風の手法を加味した意匠の大阪倶楽部、テナントビルであることを意識しデザインされた装飾性豊かなファサードを持つ高麗橋野村ビルなどを設計したことで知られています。建築近代化の激しい流れの中であって、ひたすら「真にして美なるもの」を求めて自立の道を歩み続け、独自の「自由様式の建築」を創造した大大阪時代を代表する名建築家です。



關一市長

(国立国会図書館蔵)

## 地下鉄開業&御堂筋80周年

### 堺筋と御堂筋

御堂筋が拡幅するまで、大阪のメインストリートは堺筋でした。道幅も広がったのです。堺筋はいわゆる紀州街道につながり、堺との商取引において重要なものでした。大阪最初の三越百貨店が堺筋に面して建てられたことも堺筋の重要性を示しています。しかし、明治時代になると、北と南に新しく鉄道の拠点ができました。北の方では、梅田近辺や天満橋、南の方では、難波や上六などに鉄道の駅ができています。大阪市の北と南にそれぞれ鉄道のターミナルが出来たのです。この南北のターミナルを結び、物流を効果的に動かすことが大阪の商工経済の発展につながると考えました。關市長のもとで展開された第一次大阪都市計画事業で、船場の一部分の狭い道であった御堂筋は、幅員44メートルの巨大道路となり、梅田と難波を結ぶ幹線道路となりました。そのシンボルとして街路樹に銀杏(淀屋橋以南)とプラタナス(梅田から大江橋間)が植えられたのです。



拡張前の御堂筋



拡張後の御堂筋



現在の御堂筋

©(公財)大阪観光局

例年、イチョウの紅葉は11月下旬頃です

### 地下鉄の開業



地下鉄車両の搬入作業



1925年(大正14年)、大阪市の人口は210万人を突破し、大阪市の将来を支える都市交通の基盤づくりのため、御堂筋拡幅とともに1930年(昭和5年)地下鉄の建設が始まりました。關市長の緻入力で工事は盛大にスタートし、3年4月を経てついに1933年(昭和8年)5月20日、道路の完成に先駆けてわが国で最初の公営地下鉄である御堂筋線(梅田～心斎橋)が開業しました。駅構内は機能性だけでなく見た目の美しさも追求した豪華なつくりで、大阪市民の自慢だったといえます。中でもアーチ構造の天井は、「大大阪」時代を象徴しているといわれています。